

令和7年度事業計画書

公益財団法人 奈良先端科学技術大学院大学支援財団は、「奈良先端科学技術大学院大学の持つ斬新かつ優れた特性及び機能を最大限に発揮していただくために、その教育研究活動を支援するとともに、大学院大学と産業界、地方公共団体等との交流を促進することにより、先端科学技術分野の研究開発を担う研究者、技術者等の育成及び研究開発基盤の充実に寄与し、もって我が国の科学技術の発展に資する」という目的を達成するため、令和7年度において下記の事業を実施する。

1. 大学院大学支援事業

大学院大学に対する支援事業については、大学院大学からの申請内容を支援事業選考委員会において審査の上、決定する。

支援総額 8,800千円

(1) 教育研究活動に対する支援

支援額 2,100千円

①研究テーマ助成

先進的・独創的な優れた教育研究活動の支援により、活動成果の創出拡大と研究の将来を担う人材育成を図る。(3件 支援額: 1,500千円)

氏 名	所 属 等	研究テーマ
松田 明大	先端科学技術研究科 ユビキタスコンピューティングシステム研究室 博士後期課程2年	糖尿病予防を目的とした非侵襲での血糖値予測に基づく行動変容システムの開発
吉岡 求	先端科学技術研究科 微生物インタラクション研究室 博士後期課程1年	奈良漬から単離された乳酸菌が有する好エタノール性のメカニズムの解明
ANDRIANALY Tojo Fenosoa	先端科学技術研究科 ナノ高分子材料研究室 博士後期課程2年	Exploration on synthesis of unique topologies bearing polymer via dynamic bond formation of phenylboronic acid and diol

②新任教授スタートアップ助成

新任教授が研究体制を整備して研究活動をスムーズに始められるよう支援する。

(支援額 0円)

③社会人ドクター修学支援

企業に所属している社会人の修学の促進を図るため、入学料と授業料を自己負担して博士後期課程に入学する社会人学生を支援する。(3名 支援額: 600千円)

(2) 国際交流活動に対する支援

支援額 5,360千円

①海外派遣支援

海外の国際会議において、研究成果の発表と情報収集をおこなう博士後期課程学生を支援する。(17件 支援額: 2,203千円)

②外国人留学生支援

教育研究の国際化を推進するため、外国人の留学を支援する。対象者は大学院大学の留学生特別推薦選抜の合格者の中から選考した留学生（博士後期課程）とし、渡日旅費と入学金を支援する。（6名 支援額：2,652千円）

③大学間交流活動支援

大学間における共同研究等の交流活動を行うための渡航費用を支援する。
（3件 支援額：505千円）

（3）学術研究成果の普及に対する支援

支援額 0円

意見交換会や講演会、研究業績報告会、シンポジウムなど、大学院大学の研究成果を広く社会に還元するための取り組みを支援する。

（4）アワード事業

支援額 1,340千円

①NAIST 最優秀学生賞

学習や研究に対する意欲を高めるため、学位記授与式において、優秀な成績を修めた学生を理事長名で表彰し、賞金を授与する。（賞金 840千円）

②教員表彰

教育研究活動で優れた業績を挙げた教員に対する表彰に際し、賞金を贈呈する。
（「ベストティーチング賞」、「NAIST バイオ領域賞」、「NAIST 学術奨励賞」）
（賞金 500千円）

2. 先端科学技術の普及啓発事業

大学院大学が理念の1つとして「社会の発展や文化の創造に向けた学外との密接な連携・協力の推進」を掲げ、積極的に取り組んでいる、いわゆる産学官の連携推進の活動のうち、当財団は2つの取り組みに関わり、大学院大学支援事業とは別枠で支援を行う。

（1）産学官交流事業

①奈良先端大発 新産業創出支援事業

大学院大学では「企業や他の大学との共同研究」、「企業からの受託研究」、「企業からの研究者の受け入れ」などを行っているが、これとは別に、研究成果や技術シーズの実用化・製品化を目指して関西地区の中小企業やベンチャー企業と連携して研究開発に取り組む場合に、研究開発費用の一部を支援する。（支援額 1,200千円）

②奈良先端大産学連携フォーラム

先端的で独創的な研究を行っている大学院大学の研究者と産業界の研究者・技術者との交流の場を提供することを目的として、大学院大学、(公社)関西経済連合会および当財団の共催で38回目となるフォーラムを開催する。フォーラムでは、情報科学領域・バイオサイエンス領域・物質創成科学領域の研究者による最新の研究成果の紹介講演および情報・意見交換会を実施する。開催時期、場所等は大学院大学と調整のうえ決定予定。

3. 地域交流事業

（1）地域交流

先端科学技術に対する地域住民の関心を高めるとともに、高山地区の立地施設と地域住民との相互理解を深めるため、立地施設の共催または当財団単独で交流事業を行う。

①科学実験教室

小学生を対象に、大学院大学の教官・学生が講師となる NAIST サイエンス塾（年間 8 回程度）、夏休み科学実験教室を開催する。

②サイエンスランドの運営

大学院大学との連携により、科学技術に出会える空間「サイエンスランド」を整備し、科学を通じ初等教育の場の拡大、校外学習等としての利用促進を図る。

③高山サイエンスタウンフェスティバル

高山地区に立地する 7 施設（大学院大学、参天製薬(株)奈良研究開発センター、上六印刷(株)、(株)Burley plus、(株)芦田製作所、(株)日阪製作所、当財団）で組織する「高山地区立地施設等連絡協議会」（事務局は当財団）の主催により、高山地区の振興と地域住民の交流を深めるためのフェスティバルを開催する。

④音楽会

地域における文化交流の拠点としての活性化を図るため、高山地区立地施設等連絡協議会協賛によるプチコンサートを開催する。（年間 4 回）

（2）情報発信

①インターネットによる情報発信

当財団のホームページ（URL：<http://www.science-plaza.or.jp>）において、令和 7 年度における支援内容を中心に、新たな取り組みや催事などのお知らせのほか、財団の業務・財務に関する情報を適時公開する。

4. その他の事業

（1）高山サイエンスプラザおよび高山サイエンスタウン駐車場の運営

①高山サイエンスプラザの運営

高山サイエンスプラザ（4 階建・総床面積 5,451 m²）は、当財団が行う産学官交流事業や地域交流事業などの活動拠点であり、研究者や市民の交流の場となっている。平日の 9 時から 17 時の間開館しており、地元の小学生などの団体の見学に対応している。

建物内には、研修室、貸事務所があり、屋外には「科学する子供たちの広場」や駐車場がある。当財団はこれら施設の管理・運営を行う。

また、屋上の一部を携帯電話無線基地局として賃貸、使用させている。

近年、施設、設備の経年劣化、老朽化に伴う修繕等が必要となる状況が続いており、令和 7 年度においても、必要な修繕等を行う。

②高山サイエンスタウン駐車場の運営

高山サイエンスタウン駐車場（総面積 約 2 万 m²）は県有地で、県から使用貸借により主に大学院大学の教職員・学生のための駐車場として運営している。駐車可能台数は 552 台で、一部には駐輪場も設置している。

利用料金は、1 回 300 円、1 か月定期 3,000 円（学生は半額）としている。

以上